

発表者紹介

■研究発表■

石川 恵吉 ISHIKAWA Shigeyoshi

(名桜大学環太平洋地域文化研究所 共同研究員)

2019年、琉球大学大学院人文社会科学研究所博士後期課程修了(学術博士)。研究分野は琉球文学、琉球民俗学。共著書に『国立台湾大学図書館蔵 琉球大観』(全四巻、国立台湾大学図書館、2020～2023年)、「琉球文学資料 川平朝彬「八重山歌之粒寄」について」(『沖縄史料編集紀要』第46号、2023年)、「琉球の「長者の大主」系芸能の機能—組踊・オタカベ・オモロをてがかりに」(『環太平洋地域文化研究』第2号、2021年)など。

高 語莎 GAO Yusha

(立命館大学大学院文学研究科 博士後期課程)

北京外国語大学比較文学専攻 修士課程修了。立命館大学大学院文学研究科博士後期課程に在籍。立命館先進研究アカデミー次世代研究者育成プログラム学生フェロー。専門は日本中世文学、和漢比較文学。日本中世における漢画系画題の受容を中心に、文学・絵画・芸能相互の関係に注目。論文に「能「邯鄲」の文学的背景—中世における「邯鄲譚」の受容」(『和漢比較文学』68、2022年)ほか。

リネペ アンドレ LINNEPE André

(帝京大学文学部日本文化学科 専任講師)

ドイツ、フンボルト大学ベルリン修士課程にて、日本学と文化人類学を専攻。2017年、フンボルト大学ベルリン博士課程(日本学)修了。2007～2009年、東京大学大学院法学政治学研究科研究生(文科省奨学生)として日本に留学、渡辺浩教授のゼミナールに参加。研究分野は日本政治思想史(近世)。論文に『山鹿素行の政治思想における「知」と「行」という概念—近世日本政治思想史における概念形成をめぐる』(ドイツ語:Wissen und Handeln bei Yamaga Sokō. Ein Beitrag zur politischen Begriffsbildung im Japan der Frühen Neuzeit)。

梁 鎮輝 LIANG Zhenhui

(明德義塾高等学校 中国語教諭)

宇都宮大学大学院国際学研究科博士後期課程修了。博士(国際学)。現在は明德義塾高等学校教諭。専攻分野は日中比較思想・文学、特に幸田露伴を中心に研究している。論文に、「釣人とその時代：戦時中の露伴から」(『世界文学』128、2018年)、「露伴の「墨子」とその政体論に関する考察：梁啓超との比較から」(『比較文化研究』134、2019年)「幸田露伴「道教」と近代中国：『道蔵』出版、「仙書参同契」をめぐって」(『社会文化史学』46、2021年)などがある。

胡 蕾 HU Lei

(セントルイス・ワシントン大学東アジア言語文化学部 博士論文提出資格者)

米国セントルイス・ワシントン大学の博士課程に在籍。研究分野は日本近代文学。博士論文のテーマは近代日本文学における江戸音楽の引用。泉鏡花、永井荷風、谷崎潤一郎の作品を事例に、サウンド理論を援用し、感情を表現する音楽というものが文学空間の中で如何に表されているのかということについて分析するもの。今回はアフェクト理論を援用し、中島敦の『わが西遊記』における「観察」というものの意味について検討する。

松田 忍 MATSUDA Shinobu

(大阪公立大学大学院 博士後期課程)

専門分野は近代文学。翻案作家としての太宰治に着目し、作品と原典との比較研究を続けてきた。現在は講談本や浪花節など明治、大正期の大衆文化に関心を持ち、講談本と近代文学作品との影響関係の解明に取り組んでいる。主要論文は「中国文学と太宰治—『聊齋志異』『黄英』と『清貧譚』—」(『言語文化学研究』第13号、2018年3月)、『悟道軒日記帳』昭和十四年 前半(一月から六月分) 翻刻と注釈：(六月分の担当) (『吉沢コレクションの世界—『悟道軒日記帳』・資料解題集—』2023年2月) 他。

平尾 漱太 HIRAO Souta

(大阪大学大学院人文学研究科 博士後期課程)

2020年立命館大学文学部卒業。2022年大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了。同大学院博士後期課程に在学中。研究分野は近代日本の歴史劇・歴史小説。真山青果の史劇をはじめ、歴史の語りとしての大衆文学や商業演劇に着目。主要論文は「真山青果「玄朴と長英」論—関東大震災後に「蛮社の獄」はどう描かれたか—」(『待兼山論叢日本学篇』55、2022年)、「真山青果〈幕末維新劇〉論—「昭和戊辰」前後の「明治維新」認識を手がかりとして—」(『社会文学』57、2023年)。

廖 秀娟 LIAO Hsiuchuan

(台湾元智大学応用外国語学科 准教授)

台湾・元智大学応用外国語学科准教授。1997年交流協会奨学生として大阪大学に留学。2003年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士号取得。研究分野は昭和十年代文学、日本統治期台湾文学。主な論文は、「太宰治「律子と貞子」論—理想の妻像を手がかりとして—」(『解釈』第67巻1-2月号、2021年)、「真杉静枝「リオン・ハヨンの谿」「ことづけ」論—白百合を手がかりとして—」(『台大日本語文研究』35号、2018年)、「太宰治「作家の手帖」論—〈とんちんかん〉を狙う語り—」(『語文』105・106号、2017)。

太田 一直 OOTA Kazunao

(国文学研究資料館 事務補佐員)

中央大学文学部文学科国文学専攻卒。中央大学大学院文学研究科博士前期課程修了。中央大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程単位取得後退学。研究分野は日本近現代文学。主要論文は「三島由紀夫と沖縄—その関連の可能性について—」(『沖縄学』5号、2001年)、「田宮虎彦と沖縄—『沖縄の手記から』『姫百合』などを中心に—」(『第4回沖縄研究国際シンポジウム ヨーロッパ大会 世界に拓く沖縄研究 2002』2003年)。

桂 嘉雨 GUI Jiayu

(ハーバード大学 RegionalStudies-EastAsia プログラム 修士課程)

ハーバード大学東アジア研究博士前期課程とハーバード燕京研究所に所属。研究分野は日本近現代文学。特に女性文学と戦時文学に深い関心を持っており、フェミニズム文学批評やポストコロナ理論を援用しながら、メディア学、文化史およびジェンダー学の視点を併用して文学とその周辺を考察する。主な発表として、「自己欺瞞を乗り越えて：フェミニズムの視座から見る林芙美子「晩菊」」(第6回東アジア日本研究者協議会国際学術大会)。

ピュッツァー サラ PUETZER Sarah

(オックスフォード大学大学院東洋学研究科 博士課程)

オックスフォード大学大学院東洋学研究科博士課程に在籍。オックスフォード大学とポツダム大学で日本学と比較文学・芸術の修士号を取得。ベルリン自由大学で日本学と比較文学の学士号を取得し、筑波大学で1学期留学をした。研究分野は日本現代詩で、特に空間と詩の関係に関心がある。博士論文では、空間によって詩の読み方がいかに変わるかに焦点を当てて研究を進めている。

王 格格 WANG Gege

(北京外国語大学博士課程)

2008年、中国華中師範大学日本語学科を卒業。研究生としての一年半と、大学院生としての二年間、日本の京都大学に留学。現在は北京外国語大学博士後期課程の一回生。修士課程では、中世和歌、中でも京極派和歌を専攻。博士課程では、中日詩歌論の比較研究に目を向ける。主な論文は「「ともしび」考—京極派歌風をめぐる—」と「永正十三年七月二十九日和歌聯句（三の折）訳注」。

鄧 楚涵 DENG Chuhan

(中国華東師範大学日本語学部 修士課程)

華東師範大学修士三年生。研究分野は日本古典文学。今までの発表として、「本居宣長の「もののあはれを知る」の向こうにある他者意識」(2021年11月、北京外国語大学外国語学言語学学科研究生高端學術論壇)、優秀論文賞受賞。他、「江戸思想史的脈絡—以前本居宣長時代を核心」(『美化生活』2021年4月)、「“物哀”中の深層意識—以本居宣長“知物哀”為例」(『視界観』2022年、21—22期)。

ミングッツィ ダリオ MINGUZZI Dario

(トリノ大学 非常勤講師)

2018年、ライデン大学にて修士号取得。2022年、「サピエンツァ」ローマ大学にて博士号取得。2017～2019年、京都大学でMEXT研究生。研究分野は平安前期の漢詩。主な発表論文として、「文人(もんじん)のパラダイム: 平安前期の詩と詩人」(2023年1月、MLA、サン・フランシスコ市)、「有智子内親王: 平安前期の天皇家におけるリテラシーとジェンダー」(2022年11月、パラツキー大学、オロモウツ市)、「経国集の再考: 平安前期の紀伝道出身者による文章を体系して」(2021年3月、AAS)

■インフォメーション・セッション発表■

北村 拓海 KITAMURA Takumi

(埼玉大学大学院人文社会科学研究所 博士後期課程)

埼玉大学教養学部日本・アジア文化専修課程卒業、埼玉大学大学院人文社会科学研究所国際日本アジア専攻修了。研究分野は日本茶文化・近世文学。現在、茶文化の流れを見ていく上で、明治時代以降の近代にも研究範囲を広げている。青木木米・頼山陽・夏目漱石の三人を通して、茶文化への影響及び三人の理想の茶について取り組んでいる。江戸時代と明治時代を跨いで煎茶文化の流れを網羅し、文学や歴史という枠ではなく、文化という広い範囲で茶の研究を行う。

佐藤 勢紀子 SATOU Sekiko

(東北大学 特定教授)

東北大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。研究分野は平安文学、日本語教育。『源氏物語』における仏教思想、論文作成指導法、文語文教育などを研究テーマとしている。主著『宿世の思想—源氏物語の女性たち』(ぺりかん社)、『源氏物語の思想史的研究—妄語と方便』(新典社)など。国際共修に関する論文として「留学生教育から派生した国際共修」(末松和子他編著『国際共修—文化的多様性を生かした授業実践のアプローチ』東信堂)がある。

第46回国際日本文学研究集会

開催日：令和5年(2023年)5月13日(土)～5月14日(日)

会場：国文学研究資料館大会議室及びオンライン (Zoom ミーティング及び YouTube ライブ配信)

※ハイブリッド開催

主催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館

【プログラム一覧】

5月14日(土)

13:00～13:10 開会挨拶 渡部 泰明 (国文学研究資料館 館長)

総合司会 齋藤 真麻理 (国文学研究資料館 教授)

研究発表

第1セッション

13:10～13:40 仏教文化のなかの琉球の御拝ツツ
石川恵吉 (イシカワ シゲヨシ/名桜大学環太平洋地域文化研究所共同研究員)

13:45～14:15 日本における虎と竹の取り合わせに関する一考察
高 語莎 (GAO Yusha コウ ユサ/立命館大学大学院文学研究科 博士後期課程)

14:20～14:50 江戸の服制論とその思想系譜
LINNEPE André (リネペ アンドレ/帝京大学文学部日本文化学科 専任講師)

休憩 20分 (14:50～15:10)

第2セッション

15:10～15:40 幸田露伴の趣味論について 一時代の正当なる批判者となるために—
梁 鎮輝 (LIANG Zhenhui リョウ チンキ/明德義塾高等学校 中国語教諭)

15:45～16:15 「存在」を体験する旅
—中島敦『わが西遊記』における「観察」の意味をめぐって—
胡 蕾 (HU Lei フー レイ
/セントルイス・ワシントン大学東アジア言語文化学部 博士論文提出資格者)

16:20～16:50 太宰治『惜別』試論 —<先代萩>と<三民主義>を視座として—
松田 忍 (マツダ シノブ/大阪公立大学大学院 博士後期課程)

5月14日(日) 総合司会 ダヴァン ディディエ(国文学研究資料館 准教授)

第3セッション

10:20~10:50 真山青果『元禄忠臣蔵』と史劇の可能性
平尾 漱太(ヒラオ ソウタ/大阪大学大学院人文学研究科 博士後期課程)

10:55~11:25 〈女学生〉から読む真杉静枝の戦時下文学
廖 秀娟(LIAO HSIUCHUAN リョウ シュウケン)
/台湾元智大学応用外国語学科 准教授)

11:30~12:00 田宮虎彦の作品検証から見えるもの
—『沖縄の手記から』『姫百合』などを中心に—
太田 一直(オオタ カズナオ/国文学研究資料館 事務補佐員)

休憩 90分(昼食・交流会) (12:00~13:30)

第4セッション

13:30~14:00 <家>の変容とその二重性: 林芙美子『幸福の彼方』読解の試み
桂 嘉雨(GUI Jiayu ケイ カウ)
/ハーバード大学RegionalStudies-EastAsiaプログラム 修士課程)

14:00~14:35 最果タヒの詩的な空間・空間的な詩
PUETZER Sarah(ピュッツァー サラ)
/オックスフォード大学大学院東洋学研究科 博士課程)

休憩 20分(14:35~14:55)

第5セッション

14:55~15:25 『風雅和歌集』における禅宗和歌から見る花園院の禅宗主張の一側面
王 格格(WANG GEGE オウ カクカク/北京外国語大学博士課程)

15:30~16:00 本居宣長の儒学受容史 —その京都遊学と交友を中心に—
鄧 楚涵(DENG CHUHAN トウ ソカン/中国華東師範大学日本語学部 修士課程)

16:05~16:35 平安初頭の紀伝道と天皇家における詩的リテラシー
: 『文華秀麗集』『経国集』所収「隴頭秋月明」詩群を例として
MINGUZZI Dario(ミングッツィ ダリオ/トリノ大学 非常勤講師)

16:40~16:50 インフォメーション・セッション Zoom 上の内容紹介
・売茶翁の人物像 —山東京伝『復讐煎茶濫觴』を通して—
北村 拓海(キタムラ タクミ)
/埼玉大学大学院人文社会科学研究科 博士後期課程)
・国際共修授業における古典読解 —「多言語で読む源氏物語」実践報告—
佐藤 勢紀子(サトウ セキコ/東北大学 特定教授)

16:50~17:05 閉会挨拶